

## 2回の大震災経験

.....

大川原 守

(小野山神出身/埼玉支部)

1995年1月17日(火)午前5時46分、マグニチュード7.3、震度7の地震が淡路島を震源地として神戸・豊中・京都へと抜け各地に甚大な被害をもたらした。

昨日は会社の帰り、北の新地で遅くまで飲み、今朝はゆっくりと寝ようと思っていた。

ドカーンという音とともにベッドから30センチくらい飛び跳ねたろうか、ビククリして目を覚ますと、単身寮が大きな音を立てて揺れている。建物が倒壊するのではないか、窓から飛び降りるか、便所に逃げ込むか、飛び降りるにしても4階の窓の下はコンクリートだ。頭が空回りしている。20秒ほど揺れは止まった。テレビを見ようとしたが、枕元にあったテレビが別の部屋にある冷蔵庫に台車ごと

ぶつかっていた。大阪に転勤してきたとき、同僚が関東は地震が多くて大変だね、その点関西は地震がなく安心だよと言ったのを思い出した。

テレビをつけるとヘリコプターから映し出される映像は、火災の発生、高速道路の落下、倒壊した民家の家々、事態は刻々と深刻な状況に変わり、近隣も至る所で火災が発生、あちらこちらから絶え間なく聞こえる救急車と消防車の音、上空のヘリコプターの数も多くなりこれは大変なことになった。そのうち、会社のある中の島が映し出されると、会社の窓ガラスが割れ落ちており、隣のグラウンドホテルもその隣の朝日新聞社ビルもガラスが割れ落ちている。自宅に電話は通じず、会社にも

通じず、また電車はストップ、タクシードも走ってなく、われわれ約30人の単身者は食堂に集合し善後策を話し合った。

しばらくして会社から向けられた車で出社すると、すでに数名の社員が割れ落ちたガラスの整理に当たっていた。

死者6,434人、重軽傷者4万3,792人、倒壊家屋27万4,181棟、消失家屋7,500棟、避難者35万人、断水130万世帯、停電260万世帯、電話不通30万、回線同時多発火災290件の大惨事となった。私は、この阪神淡路大震災、そして、一昨年発生した東日本大震災、さらには原発事故を経験し、よく想定外との言葉を耳にするが甚だ疑問の言葉である。



## 広報おのまち 有料広告募集!

- 掲載位置 広報おのまちの表紙と裏表紙を除く各ページの最下段
- 掲載規格 1号広告…縦 45mm ×横 178mm (最下段1段)  
2号広告…縦 45mm ×横 88mm (最下段1段の1/2)  
※いずれも1色刷り
- 掲載料 1号広告…1回: 10,000円 連続6回: 50,000円  
2号広告…1回: 5,000円 連続6回: 25,000円
- 掲載期間 広報おのまち1号につき1回  
申し込み方法など詳しくは町ウェブサイトをご覧ください。

問企画商工課 ☎ 72-6939